

言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (庄原市立口南小学校)

- ① 教科等 算数科
- ② 学年 第6学年
- ③ 単元名 比例と反比例
- ④ 本時の目標 変化する2つの数量の表と比例のきまりを関連付け、なぜそのように判断したのか根拠を明らかにし、筋道立てて説明することができる。
- ⑤ 学習の流れ (3時間目/全17時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準(観点) (評価方法)
<p>1 本時の問題や課題をつかむ。</p> <p>ともなって変わる2つの量について考えよう。</p> <p>表①1本の重さが10グラムの釘の本数とその重さ 表②面積が12cm²の長方形で縦の長さを1cmごとに増やしていったときの横の長さ 表③長さ10cmのろうそくを燃やしたときの1分ごとのろうそくの長さ 表④かごに入れたりんごの個数とかごを含めた代金</p> <p>比例の関係でないものをすべて見付け、そのわけを説明しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容や日常生活との関連を意識できる4つの表を提示し、2つの量を明確にさせる。 (商が一定・積が一定・一定でないもの) ・それぞれの場面をイメージさせ、比例のきまりについて確認し、比例の関係にならないものはどれかを予想させる。 ・予想させた際に、比例になっているものを全員で定義とともに確認させ、後の学習の足がかりとなるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比例関係になるかどうかを判断し、その根拠を、比例のきまりをもとに説明できる。 [数学的な考え方](ノート・発言)
<p>2 調べる。</p> <p>○図や説明をノートに書く。 ・比例関係にならない2量の関係について既習事項をもとに判別する。</p> <p>3 話し合う。</p> <p>○どうして比例の関係にならないのかを根拠をもとに話し合う。 ○比例していないものに決まりはないか考える。 ・表をたてに見たときに、積が一定であるものがあることを見付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表とことばや数、式などを関連付けさせることで根拠を明確にさせる。 ・自力解決が難しい児童には、前時の比例関係にある表を提示し比較させる。 ・話し合いの前に話型を示す。 ・比例の関係にならないものを、根拠を示しながら発表させる。 ・表をたてに見たときに、積が一定であるものを、後に学習する反比例であるということに触れ、関連付けていく。 	
<p>4 評価問題をする。</p> <p>○いくつかの表の中から比例の関係にならないものをすべて見付け、理由を書く。 ○理由についてペアで説明し合う。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>まとめ ・表を横やたてにみることで、比例の関係になるか、ならないかが判断できる。 ・比例していなくても、たてや横に見るときまりが見つけられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どうして比例の関係にならないのかを、根拠をもとに話し合わせる。 ・キーワードをもとにわかったことと感想を自分の言葉でまとめさせる。 	
<p>6 次時の学習内容を知る。</p>		

「言語活動の充実」

設定した言語活動を通して育てたい力

- 表と比例の定義を関連付け、なぜそのように判断したのか根拠を明らかにし、筋道立てて説明することができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- 判断の根拠を明らかにして発表させるために、話し合いの前に話型を示す。
- 一人一人が繰り返し「話すこと」「聞くこと」ができるようにペア学習を取り入れる。